

3 全国学力・学習状況調査の活用による指導の改善・充実のための取組

【全国学力・学習状況調査結果から明らかになった自校の成果と課題】

●教科に関する成果と課題

【成果】

〈国語〉

- ・一部の問題を除いて、無解答率が低くなっている。
- ・条件を理解しようと努力し、書く問題に取り組もうとする姿勢が見られる。
- ・様々な単元の授業において、語句指定等の条件を設定した「書く練習」を行っており、解答文字数の多い問題にも確実に答えられるよう反復練習を継続している。書くことへの抵抗感が薄れ、積極的に問題解決に取り組むことができるようになった。
- ・国語に関する授業への関心は高い。

〈数学〉

- ・授業で、個人で考える場面や集団で対話する場面を取り入れ、問題へのアプローチの仕方を伝えてきたことで、徐々にではあるが積極的に問題に取り組むようになった。
- ・問題を解く過程で復習したり、反復練習を取り入れたりすることで、基本的知識が身に付いてきた。
- ・問題文を読み取り、粘り強く考えて答えようとしたことが無解答率の低下に表れている。

【課題】

〈国語〉

- ・「情報を処理したり、内容を捉えたりする」力が低い。そのため、文章の書き方を知っていても、条件文の内容理解をすることができず、結果的に「書く」まで辿り着くことができていない。
- ・読解ができていない問題の無解答率が軒並み高い。
- ・「手紙を書く」ために必要な知識や経験が乏しい。
- ・学年内で、国語に関する問題の理解力、問題解決能力の個人差が大きい。

〈数学〉

- ・説明する場合に方法を理解していても言葉が足りなかったり、結論につながっていなかったりする。
- ・文字を用いて事象を表すこと、式を変形することに抵抗を感じている。

●質問紙に関する調査の結果から見られた自校の特徴

【生活習慣】

- 望ましい基本的な生活習慣が定着している生徒の割合は、全国・全道と同程度である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている生徒の割合が、全国・全道と比較すると10ポイント以上高い。
- 毎日同じ時刻に寝ていると答えている生徒の割合が国・道に比較して低い。
- 「自分には、よいところがある」と思っている生徒の割合が、全国・全道と比較すると低い。

【学習習慣】

- 平日及び休日に、家庭学習する時間や望ましい取り組み方が身に付いている生徒の割合が、全国・全道と比較すると低い。
- 学校の授業時間以外に読書をする時間が短い。

【授業づくり】

- 「国語・数学が「好き」と答えている生徒の割合が全国・全道と比べて高い。
- 授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、先生が分かるまで教えてくれていると思っている生徒の割合が全国・全道と比べて高い。

4 全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト（1学期末問題）・学期末テスト等の結果から見られる各学年の成果と課題<イー2 各学年>

	【 国 語 】	【 算 数 ・ 数 学 】
1 学年	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の「読み」についての正答率が高い。 ●「読むこと」において、文章中から事実や意見を読み分けて要約すること（段落理解）、指示語に着目して条件作文をすることに課題がある。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、文章中の段落がどのような役割で関連しているのかという文章構成をしっかり指導する。 	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業中に問題に一生懸命取り組んだり、話し合いをしたり、集中して学習に取り組む姿勢が確立してきている。 ●正負の数の計算にまだ慣れていない生徒がおり、四則計算などの技能の定着に支障が出ている。 ●文字を使った式の意味を十分理解していない生徒が多い。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の加法減法について、数直線を用いるなど、各自が自力で解決できる手段を持たせる。 ・方程式を考えさせる中で、単位に着目させ、文字式の意味を理解させていく。 ・苦手な問題を各自に理解させ、家庭学習への取り組みを促す。
2 学年	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の「読み」についての正答率が高く、「書き」についても無解答率が低くなっている。 ●「読むこと」において、抽象的な事柄や比喩的な表現を用いた文章表現に弱く、想像力を膨らませながら、文章中の言葉を用いて文章をまとめることに課題がある。 ●「読むこと」において、段落の役割を理解する力が弱い。文章の展開を捉える力に課題がある。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、文章に書かれている抽象的な言葉や表現について、言葉をかみ砕いて想像力を膨らませたり、語彙を増やすために国語辞典を活用しながら文章を読み進めたりする習慣を継続する。 	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技能は、習熟度別の授業での支援により徐々に定着してきている。 ●式を問題に合わせて変形すること、割合に関わる文章問題を整理し方程式をつくることが課題である。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識や技能については、授業での問題への関わらせ方、仲間との対話する場面の設定を工夫し、定着を図っていく。 ・割合に関わる問題については、モーニングテストなどを利用し、割合の問題に慣れる機会を設ける。
3 学年	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書きについて、小テストや家庭学習に繰り返し取り組むことによって、自信がつき、無解答率が極めて低くなった。 ○長文で答える問題に対して、諦めることなく答えようとする生徒が増え、無解答率が低くなってきた。 ○条件を読み解くことができれば、課題作文にも積極的に取り組み、正解まで辿り着く生徒が増えてきた。 ●抽象的な表現や比喩的な言葉に対する読解力が乏しい。加えて、問題で傍線が引かれた部分の文章（または語句）を言い換えた表現を書き抜く問題に時間がかかる。 ●「読み取る力」「読解力」が無ければ、文章の書き方を知っていても、「書く作業」まで辿り着かない。 	<p>【成果（○）と課題（●）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業で、個人で考える場面や集団で対話する場面を取り入れ、問題へのアプローチの仕方を伝えてきたことで、徐々にではあるが積極的に問題に取り組むようになった。 ○問題を解く過程で復習したり、反復練習を取り入れたりとすることで、基本的な知識は身に付いてきた。 ●図形領域において、仮定、根拠となることがらと結論の関係をはっきり理解することができていない。 ●数と式領域では、式を変形することに抵抗を感じており、式を自由に変形することができていない。 ●資料の活用領域では、基本的な知識の定着が課題である。 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて説明できる力をつけるために、発表前にノートに書くことやまとめを自分の言葉で書いたするなどの活動を取り入れる。 ・資料の活用は、1・2年の学習内容を振り返るテストを利用し、復習する時間を設定する。